

目次

1. 事業の目的・目標	1
1-1 目的	
1-2 目標	
2. 事業内容・事業実績.....	1
2-1 ペアレント・プログラム支援者ワークショップの実施.....	1-3
福島県会津若松市	4
鹿児島県鹿児島市	5
静岡県掛川市	6
鹿児島県徳之島	7
山形県長井市	9
北海道札幌市	10
愛知県碧南市	11
埼玉県	13
新潟県	14
鹿児島県鹿児島市	15
兵庫県西宮市	16
静岡県菊川市	17
2-2 ペアレント・プログラム実施資格認定	18
2-3 ペアレント・プログラム実施資格認定の仕組み.....	18
3. 資格認定者へのスーパービジョン.....	19
4. 研修型ペアレント・プログラムの実施.....	23
栃木県	23
新潟県新潟市	25
静岡県静岡市	26
茨城県取手市	28
3. 事業成果物	29-30
4. 全体の成果 及び 今後の課題・取り組みについて	31
巻末付録	

1. 事業の目的・目標

1-1 目的

発達障害やその特性のある子どもの家族への支援体制は十分ではなく、国は家族支援の重要性を強調し、当会が開発したペアレント・プログラムの普及に期待を寄せている。本プログラムは厚生労働省障害者総合福祉推進事業等を通して既に全国で約 350 人以上の支援者が実践参加型の研修を終え、平成 28 年度より貴財団の助成の下で支援者資格認定も開始している。しかし、研修及び資格認定を受けた支援者のサポートと各地域の実施体制構築が未だ課題として残っている。本事業では、引き続き支援者の資格認定と自治体との連携提案、ワークショップ、支援者へのスーパービジョンを実施する。行政職員の参加を積極的に促し自治体の中で継続的な保護者支援を行うことによって、未来を担う子ども達の健全育成を図ることを目的とする。

1-2 目標

本事業では、平成 28 年度事業に引き続き、既にペアレント・プログラム（全 6 回）の研修を終えた 20 か所において 10 名程度、合計 200 名程の支援者への資格認定を予定している。認定を受けた支援者が地域で本プログラムを保護者へ提供していくにあたり、提示物素材（スターターキット）や保護者配布資料などを提供する。さらにプログラムを進行する中で支援者が直面する課題や悩みに応えるために、全 6 回の内、第 2 回目及び第 4 回目の計 2 回を原則としてスーパービジョンを行う。

ワークショップでは、自治体や自立支援協議会等のメンバーの参加を積極的に促し、市町村職員等が本プログラムの内容と地域の保護者支援の現状を共有する機会とする。

上記の目標を達成することによって、厚生労働省が家族支援の核として位置付けている本プログラムを活用した子育て支援の地域における基盤を構築することが出来る。

さらに、支援者にとってはプログラムの参加型研修を終えた後のサポート体制が作られるため、地域や所属施設でのプログラムの実施が容易になる。よって、限られた講師が各地に出向いてプログラムを実施する現在の形態から、本事業において認定を受けた支援者が各地域で支援者育成を行いながら、地域に根付いた保護者支援のネットワーク体制へと移行が促進される。

こうして子育てに悩み孤立する保護者が本プログラムを通して支援者や他の保護者とつながり、子育ての悩みの軽減を促すことが期待される本事業は、虐待リスクのある保護者に対する予防的支援の実現と子どもの幸せな未来の保障へと繋がる非常に有意義な取組みであると認識している。

2. 事業内容・事業実績

本事業を進めるにあたり、以下の URL のペアレント・プログラム専用ホームページを昨年度、開設した。 <https://sites.google.com/site/npofarenasupeerudenhui/home>
今年度も引き続き活用した。

2-1 ペアレント・プログラム支援者ワークショップの実施

<実施計画>

1. ペアレント・プログラム実施資格者の育成
 - 1) ペアレント・プログラムアドバンスワークショップの実施
 - (1) 時期：2017年6月～2018年2月 各1回 計20回

- (2) 場所：熊本県、沖縄県、群馬県桐生市、愛知県（弥富市、碧南市、大治町）、静岡県（掛川市、菊川市）、福島県（対象地域はプログラムを実施した5市のうち3カ所）、新潟県魚沼市、石川県小松市、北信圏域、島根県益田市、徳島県徳島市、福岡県（八女市、北九州市）、高知県、栃木県にて20カ所程度で実施予定
- (3) 対象者：ペアレント・プログラムの参加研修を終えた支援者（保育士、保健師、福祉事業所職員等）、地域の行政職員（各5～20名、合計300名程度）
- (4) 内容：1回約3時間程度
1. ペアレント・プログラムの目標・内容の復習
 2. プログラムに必要な素材の提供
 3. 地域でプログラムを実践している事例紹介
 4. 支援者同士のプログラム実施に向けた計画作成（ワーク）
- (5) 広報：既にプログラムを実施した地域であり、いずれの地域も、プログラム実施時の関係者を通して参加を呼びかける。
- (6) 費用：参加費として1人につき1,000円徴収する。

<活動実績>

- (1) 時期： 2017年7月～2018年3月 各1回 計12回
- (2) 場所： 開催日時、事前予約者数と共に、以下に示す。
- ① ● 7/1(土) 福島県会津若松市
開催時間：9:30～12:30 会場：コミュニティ施設ピカリンホール
【住所】会津若松市町中荒井字諏訪前1-1 【事前予約者数：37名】
- ② ● 9/8(金) 鹿児島県鹿児島市
開催時間：13:30～16:30 会場：鹿児島県中央児童相談所内3F会議室
【住所】鹿児島市桜ヶ丘6丁目1-2 【事前予約者数：29名】
- ③ ● 9/24(日) 静岡県掛川市
開催時間：9:30～12:30 会場：徳育保健センター
【住所】静岡県掛川市御所原9番28号 【事前予約者数：64名】
- ④ ● 1/21(日) 鹿児島県徳之島
開催時間：13:00～16:00 会場：徳之島交流ひろばほーらい館 会議室A
【住所】鹿児島県大島郡伊仙町伊仙2575-2 【事前予約者数：24名】
- ⑤ ● 1/27(土) 山形県長井市
開催時間：9:00～12:00 会場：長井市保健センター
【住所】山形県長井市ままの上7番10号 【事前予約者数：37名】
- ⑥ ● 1/30(火) 北海道札幌市
開催時間：16:00～19:00 会場：札幌市教育文化会館 研修室302
【住所】北海道札幌市中央区北1条西13丁目 【事前予約者数：35名】

⑦ ● 2/14(水) 愛知県碧南市

開催時間：13:00～16:00 会場：へきなん福祉センター あいくる まちかどホール

【住所】愛知県碧南市山神町8丁目35番地 【事前予約者数：31名】

⑧ ● 2/15(木) 埼玉県

開催時間：13:30～16:30 会場：埼玉県発達障害総合支援センター

【住所】さいたま市中央区新都心1-2 【事前予約者数：40名】

⑨ ● 2/27(火) 新潟県

開催時間：13:30～16:30 会場：新潟市役所 本館 対策室1

【住所】新潟市中央区学校町通1番町602番地1 【事前予約者数：19名】

⑩ ● 3/2(金) 鹿児島県鹿児島市

開催時間：13:30～16:30 会場：鹿児島県中央児童相談所内3F会議室

【住所】鹿児島市桜ヶ丘6丁目1-2 【事前予約者数：35名】

⑪ ● 3/22(木) 兵庫県西宮市

開催時間：14:00～17:00 会場：西宮市立こども未来センター 4階 会議室

【住所】兵庫県西宮市高畑町2-77 【事前予約者数：14名】

⑫ ● 3/23(金) 静岡県菊川市

開催時間：13:30～16:30 会場：菊川市総合保健福祉センター

(プラザけやき) 2階 201会議室

【住所】静岡県菊川市半済1865 【事前予約者数：46名】

(4) 内容： 1回約3時間程度 (実施資格認定申請書の提出、実施資格認定証配布等含)

1. ペアレント・プログラムの目標・内容の復習
2. プログラムに必要な素材の提供
3. 地域でプログラムを実践している事例紹介
4. 支援者同士のプログラム実施に向けた計画作成(ワーク)

(5) 広報： 既に全6回の研修型プログラムを実施した地域であり、いずれの地域も、プログラム実施時の関係者を通して参加を呼びかけた。弊会HP及び、弊会が管理するペアレント・プログラム専用HP、チラシの配布によって広く案内を行った。

(6) 費用： 参加費として1人につき1,000円徴収した。

(7) 地域別活動報告

本事業は、各地域の自治体および民間団体に連携協力を依頼し、ワークショップ開催に際して、ご協力をいただきました。開催前のチラシ作成から、ワークショップ会場設営・片付け、終了後のアンケートなど、ご支援賜りましたこと、この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

注) 以下、地域ごとに提示させていただく子育て支援の現状、今後の展望等については、全てが自治体としてのご意見である訳ではありません。参考意見としてご覧ください。

福島県会津若松市

(1) 開催日時 : 2017年7月1日(土) 9:30~12:30

(2) 会場 : コミュニティ施設ピカリンホール

(3) 参加者

- ・ペアレント・プログラム実施資格認定者 : 30名
- ・認定外参加者 : 9名
- ・参加者数 : 39名

都道府県名	福島県	報告者名	児童発達支援センターゆめみっこ
連携団体名	会津若松市		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<p>○当法人にて、被災児支援として子育て相談会を通して集団でのリラクゼーション体験や、個別相談等の対応を実施している。</p> <p>○当法人にて、幼稚園、保育所(園)への巡回相談を通して被災関係や、障がい児を対象に、子どもの観察と子育てに関する相談への対応、支援者への助言等を実施している。</p>		
ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について	<p>・個別に相談を受け、県発達障がい者支援センターでのペアレントトレーニングへの紹介を行う。</p>		
その他、本事業への感想・ご意見			

鹿児島県鹿児島市

(1) 開催日時 : 2017年9月8日(金) 13:30~16:30

(2) 参加者

・ペアレント・プログラム実施資格認定者: 20名

・認定外参加者: 9名

・参加者数: 29名

(3) 会場の様子



都道府県名	鹿児島県	報告者名	林, 長井, 森田, 吉名
連携団体名	鹿児島県発達障害者支援センター		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島県においては「診断前療育」との考えの許、乳幼児健診時に気になった児については比較的早くから療育につながりやすくなってきており、直接、児童発達支援事業所等につながる場合や、保健センターの親子教室に参加しながら経過観察する中で、時期をみて支援事業所へつながる場合もある。 ・各地の児童発達支援センターを中心に、地域の保育園・幼稚園等の職員を対象とした研修や連絡会を開催し、現場のスキルアップや連携が図られつつある。 ・また、各事業所においては保護者に対して個別相談に応じたり、親の会を開いたりすることで、家族の抱えている不安への対応にも努めているところである。 		
ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度より県内各地の児童発達支援センターの支援者を対象に、研修型ペアレント・プログラムを実施している。現在13ヶ所のセンターがアドバンスワークショップを修了した資格認定者を有している。 ・今年度に入り、各センターにおいて利用児の保護者を対象にペアレント・プログラムを実施し始めている。また、研修型を実施するセンターもあり、今後、プログラムを実施できる資格認定者は徐々に増えていく見込みにある。 ・これからは各地域の実情に応じて、まず保健センターの保健師あるいは保育園の保育士等に呼び掛け実践の様子を見学してもらいたい。保健センターの親子教室や地域の集いの場において、療育につながらない家族等に対しても、プログラムのエッセンスが届けられるよう、取り組みを展開させていくことが望まれる。 		

その他、本事業への感想・ご意見

・鹿児島県においては、平成26年度にNPO法人チャレンジサポート奄美の企画により、ペアレント・プログラムの導入が図られた。以来、奄美群島において、順次取り組みが繰り広げられている。その南からの潮の流れに乗って、ここ鹿児島本土でも平成28年度から取り組みが始められることになった。回数を重ねる度に広がる保護者の笑顔と、強まる支援者の自信を励みに、県内に隈無く「ギリギリセーフ！」の合い言葉が飛び交うようになることを希望している。

静岡県掛川市

(1) 開催日時：2017年9月24日（日） 9:30～12:30

(2) 参加者

- ・ペアレント・プログラム実施資格認定者： 56名
- ・認定外参加者： 6名
- ・参加者数： 62名

(3) 会場の様子



都道府県名	静岡県	報告者名	市川
連携団体名	掛川市		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<p>平成24年度末に実施した市民アンケートでは、就学前の児童を持つ親の7割が、子育ての不安や悩みを持っていると回答しています。</p> <p>要支援児は、増加傾向にあり、虐待なども同様の傾向にあります。このままいけば、核家族化や子育ての悩みを持つ親が増加の傾向をたどり、子どもにとっても良い養育環境になっていかないことが予測されます。子育て支援拠点事業や子育てコンシェルジュ事業を行っているものの、発達障がいに関する専門的に相談にのるところは無く、困っている声が市に寄せられています。</p> <p>そこで、相談事業のネットワーク化を進めるとともに発達障がい児の専門的な支援体制をつくることが喫緊の課題です。</p>		

<p>ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について</p>	<p>本年度2回のペアレント・プログラムを実施した。第1回は、研修型ペアレント・プログラムを実施し、9月にはアドバンスワークショップを開催した。第2回目のペアレント・プログラムでは、本年度資格取得した方がペアレント・プログラムを開催し、参加された保護者は、初めは殆ど話をする事がなかったが、回を重ねるごとに表情が明るくなり、講座の最終回には笑顔で受講されていた。</p> <p>今後も資格認定者の増加を目指し、本事業の理解が進み様々な地域で講座が開催され、子育てしやすい環境づくりに努めていく。</p>
<p>その他、本事業への感想・ご意見</p>	<p>平成29～31年度の3カ年で支援者の資格取得者を増やすことにより、各地域での講座開催が可能となり、発達障がいへの理解と対応の仕方が広がり、支援体制を広めるよう取り組んでいきます。</p> <p>については、平成30・31年度のアドバンスワークショップの開催をお願いします。</p>

鹿児島県徳之島

- (1) 開催日時： 2018年1月21日(日) 13:00～16:00
- (2) 参加者：
- ・ペアレント・プログラム実施資格認定者： 10名
 - ・認定外参加者： 12名
 - ・参加者数： 22名
- (3) 会場の様子



都道府県名	鹿児島県	報告者名	大山 周子
連携団体名	NPO 法人 チャレンジドサポート奄美		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<p>〈子育て世代包括支援センター〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待家族に対する支援会議を定期的実施している ・妊娠期から出産後早期の家庭訪問や妊娠、出産、子育て、女性の健康に関する相談を行い、安心して子どもを産み、育てることができる <p>〈はぐくみ・育ち見守り隊：通称黒うさぎおばちゃん〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政主催の研修を積んだ子育て経験者が家庭訪問し、保護者が地域で孤立することなく子育てができるように温かく声をかけ見守る子育て応援団 <p>〈ファミリーサポートセンター〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育ての援助を希望する利用会員と援助を行うサポート会員の地域の中の助け合いの子育てをするセンター <p>〈保健師による健診後のフォローのための親子教室〉</p> <p>〈保育所、幼稚園の訪問型療育相談会（療育へのつなぎ）〉</p>		
ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について	<ul style="list-style-type: none"> ・与論町においては今年度、自立支援協議会の子ども部会で取り組んでおり、今後も継続して取り組む予定 ・宇検村にてペアレントプログラム開始予定 ・与論町、宇検村、奄美市のアドバンスワークショップの実施を予定 ・奄美市、徳之島でのペアレントプログラム拡大予定 ・健診後の親子教室の保護者には具体的に子育てを学ぶ機会としては今後もペアレントプログラムの開催の要望あり ・就学児の保護者向けのペアレントプログラムを開催する必要性を感じている ・学童クラブの指導者に支援者として入ってもらい支援方法を学ぶ場にしてもらいたい 		
その他、本事業への感想・ご意見	<p>辻井先生には離島にも関わらず何度も来島していただき、感謝しております。何とか保護者に上手く伝えられるようにと努力はしていますが、まだまだフォローが必要です。是非、フォローアップのために来島をお願いいたします。</p> <p>社会資源や専門家の少ない離島では、ペアレントプログラムが取り組みやすく家族支援としてとても有効です。今年度実施した地域では、かなりの行動変容と保護者の工夫がみられ、うれしい限りです。今後も各離島の隅々までペアレントプログラムが広がるまでご支援よろしくお願いいたします。</p>		

山形県長井市

(1) 開催日時： 2018年1月27日(土) 9:00~12:00

(2) 参加者

・ペアレント・プログラム実施資格認定者： 8名

・認定外参加者： 22名

・参加者数： 30名

(2) 会場の様子



都道府県名	山形県	報告者名	子育て推進課 加藤潤子
連携団体名	長井市役所		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<p>虐待事案や発達障害児の相談などは、これまでは、保護者とつながって、話を聞くしかなかった。継続支援としても「最近はどうですか？」の定期的な電話確認のみであったが、ペア・プロ後は、最近褒めたことや具体的な子どもの行動が会話に出てくるようになった。</p> <p>①エピソードを聞いていく中で、これまで思っていた親子とは異なる関係性が見えてくることもある。</p> <p>②また、ペア・プロで一緒に保護者同士が会うと、講師の先生を話題に、友達のように話している状況を聞くことがある。これまで孤独だった保護者も、仲間意識を持てたように思う。</p> <p>③さらには、保護者自身のエピソード内容もペア・プロで聞いているので、引き続き褒めポイントを話題にできる。</p> <p>④保護者が自分発信の話題を発表するので、こちらが考えていない方向のエピソードが仕入れられる。</p> <p>⑤支援者からも、現場で生かされたエピソード等の報告を受け、保護者が「ほめほめカード」を作って家族で使っている話をお聞きした際には、支援者も活用している等、相乗効果あり。</p> <p>上記①～⑤以外にも虐待担当職員（家庭児童相談員等）のストレスが、軽減されたように感じる。</p>		

<p>ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について</p>	<p>少なくとも1年に1回は事業を継続していく。【今年度認定者 8名】 保育施設の職員が、ペア・プロを把握できているしくみをつくり 児童に関わる人（実際児童と接点がある職員）が、保護者へアドバイスできる環境 づくり</p>
<p>その他、本事業への感想・ご意見</p>	<p>ペアレント・プログラムに出会って、助けられた人がたくさんいます。実際「あの時はいっぱいいっばいで、ペア・プロに救われた」との感想をいただく機会が多くあります。</p> <p>支援者としての私自身もその1人です。</p> <p>子や保護者を助けてあげたいけれど、それを可能にできるだけスキルがない。けれど、ペア・プロに参加していただくと、それだけで保護者のストレスが解消されていく。子を身近で見ている人は、子の落ち着いていくさまに驚き、安堵する。そんな場面をこれからも作っていければと思っています。</p>

北海道札幌市

(1) 開催日時： 2018年1月30日（火） 16:00～19:00

(2) 参加者

- ・ペアレント・プログラム実施資格認定者： 14名
- ・認定外参加者： 25名
- ・参加者数： 39名

(3) 会場の様子



都道府県名	北海道札幌市	報告者名	
連携団体名	札幌市自閉症・発達障がい支援センター		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	家族支援体制として、札幌市は平成23年度よりペアレント・メンターの養成を開始し、平成26年度からは地域への派遣活動も行っている。また、ペアレント・プログラムについては、札幌市子ども発達支援総合センターと協力し、地域への普及を検討している。		
ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について	現在、保健センターや子育て支援センターの職員向けに研修型のプログラムを年数回実施しており、ゆくゆくは地域（区）ごとに実施していけるようなシステム作りを検討中。		
その他、本事業への感想・ご意見			

愛知県碧南市

(1) 開催日時： 2018年2月14日（水） 13:00～16:00

(2) 参加者

- ・ペアレント・プログラム実施資格認定者： 23名
- ・認定外参加者： 7名
- ・参加者数： 30名

(3) 会場の様子



都道府県名	愛知県碧南市	報告者名	鈴木信恵
連携団体名			
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<p>一般的な子育て支援については、市内に10箇所ある子育て支援センターにて相談やさまざまな行事を行っている。その中でも発達に関しての相談を受ける場合もあるため、福祉課発達支援係が子育て支援センターへの巡回支援を行い、支援員に対しての保護者への接し方や対応についてのアドバイス等を行っている。また、専門的な発達相談は福祉課にて実施している。</p> <p>他にも、保健センターでの教室や育児相談、学校教育課での教育相談等の家族支援を行っている。今年度は、そうした関係者が集まる会議を数回開催し、現状や課題の情報の共有や連携を図っている。</p>		
ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について	<p>ペアレントプログラムについては、来年度は一般の保護者向けに1コースと親子通園施設に通っている保護者向けに1コースの実施を予定している。また、各コースに保育園、幼稚園の保育士等や保健センターの保健師も支援者研修として参加してもらい、各関係機関でもペアレントプログラムを経験した職員の増加を目指していく予定である。</p> <p>また、来年度から実施予定の早期療育親子支援事業においても、ペアレントプログラムの「ほめる」「行動でみる」「仲間づくり」というエッセンスを取り入れた内容を少しずつ盛り込んでいく予定である。</p>		
その他、本事業への感想・ご意見	<p>今年度初めてペアレントプログラムを実施したが、実施前はどのようなのか、事前研修だけではなかなかわからない部分もあった。しかし、実際に1コース実施してみると、保護者、支援者ともにより変化がみられ、参加していた支援者は肌で効果を感じられた。</p> <p>物事の視点を変えるということは、とても大きな変化をもたらすと感じた。</p> <p>今後、市単独で展開していく上での不安としては、自分達だけでうまく研修を進められるかという点である。アドバンス研修として、実践型の研修も行っていたかとありがたいです。</p>		

埼玉県

(1) 開催日時： 2018年2月15日(木) 13:30～16:30

(2) 参加者

・ペアレント・プログラム実施資格認定者： 31名

・認定外参加者： 8名

・参加者数： 39名

(3) 会場の様子



都道府県名	埼玉県	報告者名	鈴木久美子
連携団体名	埼玉県発達障害総合支援センター		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<p>埼玉県は人口が約730万人（さいたま市130万人）と多く、発達障害者支援センターだけで発達障害児者支援を行うことは不可能なため、当センターでは、支援者の人材育成や地域の支援機関への支援に力を入れている。</p> <p>【埼玉県発達障害総合支援センターの主な親支援事業の取組】</p> <p>○子育て支援講座の実施・普及</p> <p>ペアレントプログラム等の子育て支援講座の普及を図るため、以下の講座は、親向け子育て支援講座を運営できる人材育成研修としても実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントプログラム ・ペアレントトレーニング ・ストレス解消！楽しい子育て応援講座 <p>○ペアレントメンター養成・相談事業</p> <p>発達障害のある子供を育てた経験のある保護者をペアレントメンターとして養成し、児童発達支援センターや市町村に出向き、グループによる交流会・相談会等を実施している。</p> <p>【県内市町村等での親支援事業の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診等で把握した発達の遅れのある子供を対象に集団や個別で指導を行う「親子教室」「発達相談」等はほとんどの市町村で実施している。 ・当センターで実施したペアレントトレーニング指導者育成研修を受講した市町村保健師や障害児通所支援事業所職員がペアレントトレーニングを開催しているところが数カ所ある。 ・ペアレントプログラムについては、NPO 法人にここ（川口市内）が平成28年度から実施している。当センターでペアレントプログラム支援者育成研修を開始したのが今年度のため、NPO 法人にここ以外の団体でペアレントプログラムを実施しているところは把握していない。 		

<p>ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について</p>	<p>市町村、子育て支援センター、保育所、障害児通所支援事業所等でペアレントプログラムが実施できるよう支援者育成研修を継続して実施する。</p> <p>また、ペアレントプログラムを普及するために、研修修了者が初めて講座を開催する際には、当センターの資格認定を受けた専門職が会場に出向き、講座運営や保護者への対応について助言や支援を行う。</p>
<p>その他、本事業への感想・ご意見</p>	<p>ペアレントプログラムは、保護者の「認知的枠組みを修正する」プログラムであるが、講座実施後のアンケート調査（県独自）では、保護者の養育態度の向上だけでなく、子供の行動の改善も認められたことから、本プログラムの有効性を改めて認識している。</p>

新潟県

- (1) 開催日時： 2018年2月27日（火） 13:30～16:30
- (2) 参加者
 - ・ペアレント・プログラム実施資格認定者： 16名
 - ・認定外参加者： 2名
 - ・参加者数： 18名
- (3) 会場の様子



都道府県名	新潟市	報告者名	多田 比外美
連携団体名	新潟市発達障がい支援センター「JOIN（ジョイン）」		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<p>□新潟市ではH24年・H25年は単独で、H26年以降は新潟県発達障がい者支援センターと共催で、ペアレント・トレーニングの専門家を招き、行政・医療機関・児童発達支援事業所・相談機関等の職員を対象に「家族コミュニケーション支援者養成研修」を開催してきた。現在、市内の医療機関や児童発達支援事業所など計9箇所において、ペアレント・トレーニングが実施されている。</p> <p>□また、ペアレント・トレーニングの内容を簡単に記したリーフレットやほめることに特化したリーフレットを作成し、医療機関や児童相談所、教育機関などに配布。保育園の保護者講座や公民館の講座などにおいて、これらのリーフレットを用い、先生やスタッフの方に寸劇をやっていただきながら、ほめるコツや25%ルールなどを紹介している。</p> <p>□市内公私立保育園、子育て支援センター職員等においても、当センタース</p>		

	<p>スタッフによる講演によりペアレント・トレーニングを学んでいただき、その手法を園便りへの掲載や送迎時における保護者への伝達を行なってもらっている。</p> <p>□以上の活動の効果もあり、ペアレント・トレーニングの受講希望保護者が年々増加する一方、養成研修を受けてもマンパワーやスキルに不安を感じる等の理由からペアトレグループの運営までには至らず、人材育成（養成研修の見直し等）が追い付いていないのが現状である。</p>
<p>ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について</p>	<p>□新潟市の中でも子育て支援や家族支援が行き届いており、療育機関などの資源に恵まれている地域と支援の行き届いていない地域とで、かなり差がある。</p> <p>□新潟市ではペアレント・トレーニングの認知度がかなり高いが、今後は、診断の有無や発達の程度、年齢を問わず、どのような子をもつ保護者にも活用することのできるペアレント・プログラムの周知、理解、促進のための支援者向け講座を行政と連携・協働し、開催することを検討している。</p> <p>□そのうえで、ペアプロの実施に関して積極的である地域にて研修会と研修型ペアプロを実施し、地域へ汎化できるよう計画している。また、地域の特性に合わせたアプローチも行っていきたい。</p>
<p>その他、本事業への感想・ご意見</p>	<p>□今回、認定証を取得した方の多くがペアプロを実施することに不安を感じている。支援者養成研修を開催することについては、なおさらなのであるが、支援者の育成について、今後もアスペ・エルデの会の担当者の方が各地域で定期的開催、認定していただけると幸いです。</p> <p>□フォローアップ研修についても定期的開催していただき、スキルアップや地域への汎化のあり方（他県での実施状況や事例等）についても、ご助言・ご支援ご協力いただければと思います。</p>

鹿児島県鹿児島市

(1) 開催日時： 2018年3月2日(金) 13:30～16:30

(2) 参加者

- ・ペアレント・プログラム実施資格認定者： 25名
- ・認定外参加者： 13名
- ・参加者数： 38名

(3) 会場の様子



兵庫県西宮市

(1) 開催日時： 2018年3月22日(木) 14:00～17:00

(2) 参加者

- ・ペアレント・プログラム実施資格認定者： 15名(予定)
- ・認定外参加者： 0名(予定)
- ・参加者数： 15名(予定)

(3) 会場の様子： 開催日が報告書入稿後のため掲載できず。

都道府県名	兵庫県	報告者名	
連携団体名	大阪大学大学院 連合小児発達学研究科		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<p>西宮市立こども未来センターは福祉・教育・医療が連携し、様々な悩みや不安のある子供達に切れ目ない支援をおこなうための中核拠点です。子供を支援するうえで子供の環境を整え、関係者が連携することは大切なことだと考えています。</p> <p>当センターは診療・小児リハビリテーション部門、相談支援部門、学校園支援部門等があり、児童発達支援センターの通所施設も含まれています。当センターを利用する本人への支援だけでなく保護者への支援も重要と考えており、ペアレント・プログラム以外にも複数の事業で保護者支援を行っています。また、初診までの診療待ち期間が約5か月生じていることから、診療を待っている期間の不安の軽減等を目的としてもペアレント・プログラムを活用しています。</p>		
ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について	<p>来年度は、今年度、研修型ペアレント・プログラムに参加した職員が主体となってペアレント・プログラムを実施していきます。西宮市立こども未来センターを利用する保護者を対象に2クール実施し、それに併せて研修型ペアレント・プログラムも当センターの職員を対象として実施していきます。また保健福祉センターでも保健師が支援している方を対象として2クール実施します。</p>		
その他、本事業への感想・ご意見	<p>今回、2クールを研修型で行い、第一クールは未就学児の養育者対象に、第二クールは小学校高学年の養育者を対象に行い、いずれの参加者にも大変好評で、このような取り組みがあることを参加者の何名かがご自身の所属する集まりで紹介して下さるなど、非常に前向きに捉えて下さっていることが分かって実施側として手ごたえを感じることができた。参加したスタッフ全てが本取り組みを評価し、市全体に拡大していく計画につながり、次年度以降各地で実施できるようになったことが素晴らしいと感じ、本事業のさらなる拡大に貢献したい。</p>		

静岡県菊川市

(1) 開催日時： 2018年3月 23日(金) 13:30~16:30

(2) 参加者

- ・ペアレント・プログラム実施資格認定者： 33名(予定)
- ・認定外参加者： 13名(予定)
- ・参加者数： 46名(予定)

(1) 会場の様子： 開催日が報告書入稿後のため掲載できず。

都道府県名	静岡県	報告者名	山崎智子
連携団体名	菊川市健康づくり課		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<p>当課では、平成29年度から子育て世代包括支援センターの機能も持ち、妊娠期から就学前までの母子保健・発達支援などを担当しています。</p> <p>母子保健事業としては、母子手帳交付・赤ちゃん訪問や妊婦健診妊婦健康診査・新生児聴覚スクリーニング検査・4か月児・10か月児健診の費用助成、1歳6か月児・2歳児・2歳6か月児・3歳児の健診・フッ素塗布を集団健診で実施。毎月4日間の乳幼児相談も実施している。</p> <p>子育て支援事業としては、妊婦教室、離乳食教室、7か月相談の集団での子育て講座、1歳児親子あそびの教室、虐待予防の教室を実施している。</p> <p>発達支援事業として、発達相談や療育教室(未就園児4グループ、就園児1グループ)を実施している。</p>		
ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について	<p>今年度、主に市職員対象に、アスペルデの会に委託して支援者研修を実施しました。</p> <p>来年度は、支援者認定資格を取得した職員が、「市の発達相談や療育事業・発達支援センターの事業を利用した保護者」と、支援者として「市内幼稚園・保育園などの職員」を対象にペアレント・プログラム講座を実施する。</p> <p>その次の年度からは、当課では市の発達相談や療育事業を実施した保護者を対象に講座を実施、また、受講した幼稚園・保育園などの職員は各園で親支援に活用してもらう。</p>		
その他、本事業への感想・ご意見	<p>一定の期間、回数を重ねる学び方は身につけやすいと思った。また、参加者が回を重ねるごとに表情が和らぎ、ペアワークも話が弾んでいて、雰囲気がよく実施できた。</p> <p>認知の枠組みを保護者の方が自分で(支援を受けつつ)かえる作業はとても素晴らしいことで、ワークを通じて母子関係を良いサイクルにするきっかけになると思った。このプログラムを多くの保護者が体験できると良いと思う。</p> <p>支援者研修で参加したが、自分自身のこと、自分の子どものことが整理できてよかった。</p>		

2-2 ペアレント・プログラム実施資格認定

<実施計画>

- (1) 時期：2017年6月～2018年2月（申請はワークショップ実施と同時）
- (2) 対象者：既にペアレント・プログラム参加型研修（全6回）を受講し、本事業におけるワークショップに参加した支援者（保育士、保健師、福祉事業所職員等）（合計200名程度）
- (3) 内容：ペアレント・プログラム実施資格認証の発行および認証者数・地域掲載のウェブサイト掲載
- (4) 費用：発行費用として1人につき3,000円を徴収する。

<活動実績>

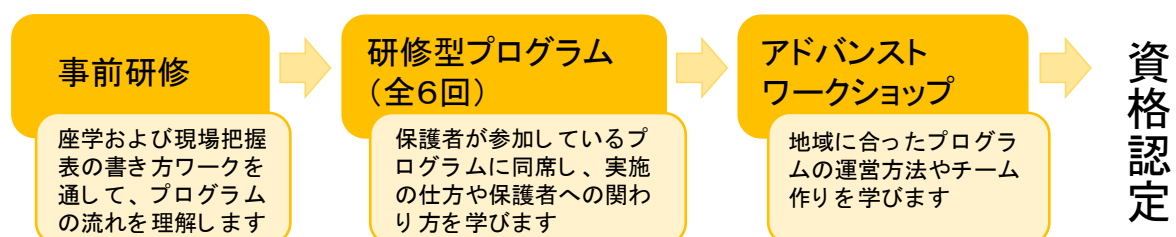
- (1) 時期：2017年7月～2018年3月（ワークショップ実施と同時）
- (2) 対象者：既にペアレント・プログラム参加型研修（全6回）を受講し、本事業におけるワークショップに参加した支援者（保育士、保健師、福祉事業所職員等）（合計281名見込み）
- (3) 内容：ペアレント・プログラム実施資格認定証の発行および地域別実施資格認定者数をペアレント・プログラム専用HPへ掲載（今後、随時更新予定）
- (4) 費用：発行費用として1人につき3,000円を徴収した。

2-3 ペアレント・プログラム実施資格認定の仕組み

(1) 導入の目的

本事業は、ペアレント・プログラム実施のための資格認定制を導入することを目的とした事業（2年目）である。平成29年度日本財団の助成を受けて実施し、平成29年度も引き続き日本財団助成事業としての継続実施させていただいた。

この「資格」は、今後、県および市区町村が家族支援の公的な枠組みの中でペアレント・プログラムを導入していくにあたり、地域でペアレント・プログラムが実施可能な支援者の質を確かなものにするためのものである。また、本事業を通じて、各地域の子育て支援の現状や課題などを、施設や職種を超えて共有する機会とし、自治体の中で継続的な保護者支援を行う足がかりとなることも目的としている。



資格認定を受けるまでの流れ

(2) 資格の有効期限および更新について

今回認定する資格は5年間の有効期限を設けている。これは、ペアレント・プログラムそのものが、マニュアルに沿った全6回を基本としつつ、各地域の実情に合わせて柔軟に改変していくことを推奨していることに基づくものである。つまり、今後もマニュアルの改変が見込まれるため、5年をめやすに実施内容のアップデートをはかることを目的としているためである。今後の更新に関しては、今回と同様のワークショップの実施を予定しているが、実施形態や内容は変更する可能性がある。

3. 資格認定者へのスーパービジョン

<実施計画>

- (1) 時期：2017年6月～2018年2月
- (2) 場所：愛知県、千葉県、静岡県、山形県、鹿児島県、青森県、奈良県、北海道、長崎県、宮城県にて12カ所程度で実施予定。
- (3) 対象者：ペアレント・プログラム実施資格認定者であり、認定された地域においてペアレント・プログラムを実施している者
- (4) 内容：第2回目と第4回目の2回を基本として、会場内へスーパーバイザーが赴いてのスーパービジョン或いはスカイプを利用したスーパービジョンを実施する。

<活動実績>

- (1) 時期：2017年8月～2017年12月
- (2) 場所：福井県、愛知県、兵庫県（計3カ所）
- (3) 対象者：ペアレント・プログラム実施資格認定者であり、認定された地域においてペアレント・プログラムを実施している者
- (4) 内容：第2回目と第4回目の2回を基本として、会場内スーパーバイザーが赴いてのスーパービジョンを実施した。(6)に活動報告書を以下に掲載する。
- (5) スーパービジョン様式の作成：フォーマット作成にあたり、下記の通り検討会を開催した。

日時：2017年8月17日(木)16:00開始

場所：大府市役所 402会議室

参加者：浜田恵氏（名古屋学芸大学）

桃山保育園 園長・荒池保育園 園長 ・ 共長保育園 園長補佐

柘山保育園 園長補佐 ・ 保育課 大府市保育課指導保育士

子どもステーション 所長

（計7名）

さらに、2018年3月2日にも大府市にて、実際に記録用紙を活用した上での意見交換会を実施し、スーパービジョンを受けるための資料様式を作成した。

（巻末付録参照）

(6) スーパービジョン活動報告

<電話によるSV> …計1回

スーパービジョン(SV)実施報告書

お名前	宮地菜穂子			資格認定番号	2316003	
ご所属	NPO 法人アスペ・エルデの会			研修型ペアプロ開催地	越前市	
研修型ペアプロ 実施日程	1回目 H29 6/1	2回目 H29 6/8	3回目 H29 6/22	4回目 H29 6/29	5回目 H29 7/13	6回目 H29 8/3
スーパーバイザー名	1回目 宮地菜穂子			SV希望の代表との日程調整が難しく、		
スーパーバイザー実施日時	H29 7/21 (13:45~14:15)			5回目と6回目の間で電話によるSV実施		

☆ 認定者が行うペアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

資格認定を受けてすぐ、ペアレント・プログラムを研修型で実施されており、保護者に関しては、第4回目の「ギリギリセーフを見つける」・第5回目の「ギリギリセーフをきわめる!」という、『ギリギリセーフ』概念の修得の難しさ、説明の難しさに対する相談があった。

また研修型ということで、「認定者講習をその間してしまして、不安な点があります。」との申し出があった通り、支援者への研修も保護者支援と合わせて行うことから、ご自身の進め方でいいのだろうか?といった不安を抱えていらしかった。それらをお聞きし、一つひとつをご助言をさせていただいた。

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

今年度、初めて開始を試みたSVであったが、本件は早い段階からご依頼をいただいたにもかかわらず、スーパーバイザーとなる弊社代表との日程調整が難航した。また、スカイプ等によるSVの体制整備や日程調整も同様に難航したため、結果的に事務局よりお電話によりお詫びとお話を伺う結果となってしまった。

SVについては、各自自治体支援者が地域の実情に応じてペアプロ日程を設定していくものであり、その日程に第2回目、第4回目に合わせて現地へ赴いたり、希望時間に通信機器を用いてSVを行うには日程調整の壁が厚い。そのため、出来るだけ早く、SVのためのフォーマットを作成し、記録を基にしたSVの実施と、各自自治体でスーパービジョン可能な支援者を育成するための体制構築の必要性を感じた。

< 現地訪問による SV > …計 4 回

スーパービジョン(SV)実施報告書

お名前	田中尚樹			資格認定番号	2317049	
ご所属	日本福祉大学社会福祉学部			研修型ペアプロ開催地	愛知県田原市	
研修型ペアプロ 実施日程	1回目 H29.6/30	2回目 H29.8/4	3回目 H29.9/1	4回目 H29.9/29	5回目 H29.10/20	6回目 H29.12/15
スーパーバイザー名	1回目 田中尚樹			2回目 田中尚樹		
スーパーバイザー実施日時	1回目 H29.8/4 10:00~12:00			2回目 H29.9/29 10:00~12:00		

☆ 認定者が行うペアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

参加者の様子を見て、わかりやすいように提示物の作成をしたり、ホワイトボードへの貼り付けを工夫したりするなどして、参加者の理解やワークがスムーズにできていた。

参加者どうしで確認し合う時間帯に、支援者とだけで話し続けてしまうことがあるので、ペアの人にも聞き返してみたり、二人で話し合ってもらったりするように促すようなことができるとよいことを伝えた。

ペアで確認し合う時間も徐々に盛り上がってくるが、設定された時間で区切って次の内容に進めていて、予定の内容を余裕をもって取り組むことができていた。

☆ SV を通して把握された今後の SV 体制の在り方について。

4回目、5回目はギリギリセーフ行動を見つけるので、「困ったところ」の中で頑張っていることなどをみつけると、「努力しているところ」につながっていくけど、そこで「困ったところ」が亡くなってしまふ人が多い。「困ったところ」をゼロにすることが目的ではないので、その中でポジティブな部分を把握していくことが大切で、「困ったところ」は項目として残しておくということも今後の対応に必要な情報なので、書いておくとういことも伝えられるとよい。

マニュアルに沿って進めることはできても、参加者は行動で把握できるようになり、質問も具体的になるので、そこへの対応の仕方や時間配分などで戸惑うことが出てくる。そこへの助言なども含め、SV は必要になってくる。

スーパービジョン(SV)実施報告書

お名前	望月 直人			資格認定番号	4317002	
ご所属	大阪大学			研修型ペアプロ開催地	西宮市	
研修型ペアプロ 実施日程	1回目 17/11/10	2回目 17/11/24	3回目 17/12/1	4回目 17/12/15	5回目 18/1/12	6回目 18/1/26
スーパーバイザー名	1回目 望月 直人			2回目 望月 直人		
スーパーバイザー実施日時	1回目 17/11/24			2回目 18/1/12		

☆ 認定者が行うペアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

● ペアプロの様子

初会からマニュアルを良く読み込み、参加者に顔を上げて丁寧にファシリテーションされていた。また、参加者の様子にあわせて、適宜コメントしたり、ペアワークの時間調整をされるなど、時間配分や参加者の雰囲気作りにも配慮されていた。1名がドロップアウトしたものの、全体として参加者の満足度は高い結果と思われた。

● 助言内容等

気になる参加者への対応や考え方について、適宜助言した。また、参加者の理解度に応じて、進度を調整する必要があることもお伝えした。また今後に向けて、初回時に参加者に対して、いかにモチベーションを高めようか、安心できる空間となりえるかを（言葉だけでなく雰囲気・環境としても）伝える努力をすることが必要であることを助言した。

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

● SV体制について

- ・現在の、2、4回目のタイミングも大切であると思われるが、初回時のSVも有効かと思われる。1回目は参加者の見極めだけでなく、参加者の動機づけも関係することもあり、非常に重要と考えられるためである。
- ・現体制では、SVの具体的な進め方については、個々のスーパーバイザーによって異なる部分も多いと思われる。今後、ペアプロが各地で大きく展開していくならば、SVで取り扱う必要な事項や留意点などを明確にし、SVの質の担保に向けて、スーパーバイザーに向けての研修体制も充実していく必要があるのではないだろうか。

3. 研修型ペアレント・プログラムの実施

<実施計画>

- (1) 時期：2017年6月～2018年2月 各7回
- (2) 場所：実施希望都道府県の中から抽選により3カ所程度
- (3) 研修対象者：保育士，保健師，福祉事業所職員等（各5～10名，合計30名程度）
- (4) 内容：事前研修1回 及び プログラム参加型研修6回 （計7回）

<活動実績>

- (1) 時期：2017年9月～2018年3月 各7回
- (2) 開催地域：実施希望が予定を上回ったため、選考の結果、計4カ所実施
栃木県 ・ 新潟県新潟市 ・ 静岡県静岡市 ・ 茨城県取手市
- (3) 地域別活動報告
※ 研修参加の支援者は、上記プログラム開催時間前後に各30分程度ミーティング実施。

● 栃木県

連携協力団体：とちぎリハビリテーションセンター

日程：事前研修 2017年9月11日

研修型ペアレント・プログラム

① 10月2日・②10月16日・③11月6日・④11月27日・⑤12月4日・⑥12月18日

時間：時間は各回とも午前10時15分～午前11時15分

場所：とちぎリハビリテーションセンター 3階 大会議室（宇都宮市駒生町3337-1）

対象：発達障害又はその疑いのある小学校低学年のお子さんの保護者（定員10名）

※栃木県在住の方に限る

講師：中原 竜治 氏（浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター特任研究員 / 臨床心理士）



都道府県名	栃木県	報告者名	武田 沙織
連携団体名	栃木県発達障害者支援センター ふぉーゆう		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<p>子育て支援については、各市町が中心になりますが、地域によって支援の方法に違いがあると思われます。</p> <p>当センターでは、これまでペアレント・トレーニングの支援者育成研修を行ってきましたが、研修受講希望者は多く家族支援のニーズは高いものの、個人の学習にとどまり、研修受講後各所属においてペアレント・トレーニングを実践するまでには至らない状況が続いていました。</p>		
研修型ペアプロを実施されたご感想・ご意見	<p>6回のペアプロに参加いただいた保護者の方からは、「子どもが頑張っているということに気づいた」という感想が多くありました。また保護者自身に関して、「子育てをうまくできていないと思っていたが、自分も頑張っていることに気づいた」という感想もあり、ペアプロが子どもの理解だけでなく保護者の自信の回復にもつながる、とても有効なプログラムだと思いました。</p> <p>「クラスの保護者に話しても理解してもらえないが、ペアプロでは他の方の発表を聞いて、まるで我が子のことのようにリアルにイメージできて、自分だけじゃないんだと思った」「他の保護者と話す機会があってよかった」等の感想もあり、保護者同士で連絡先を交換したり、第6回終了後には皆さんで和気あいあいとランチに連れ立ったりする様子を見て、お互いの気持ちを分かり合える人と出会うことは、本当に大切なことだと思いました。</p> <p>第6回目に保護者の方々が、初回とは違う生き生きとした表情で、うれしそうに自分の子どもについてお話される姿を見て、栃木県としては、より多くの保護者が身近なところでペアプロを受けられるよう普及啓発に取り組んでいきたいと思っております。</p>		
ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について	<p>研修型ペアプロは、ただ聞くだけの講義とは違い、保護者へのプログラム提供の場にスタッフとして同席したため、「実施の方法を具体的に学ぶことができた」「保護者の変化を感じられた」等の感想があり、今後の実施については「不安はあるが実施してみたい」との意見が多数でした。今後保護者の方が身近なところでペアプロを受けられるよう地域と連携して支援の輪が広がっていくよう取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>また、より多くの支援者にペアプロについて知っていただくために、ペアプロについての啓発活動や、県内でペアプロを実践した地域の実践報告や情報共有の機会も必要と考えています。</p>		

● 新潟市

連携協力団体：新潟市発達障がい支援センター「JOIN(ジョイン)」

日程：事前研修 2017年9月12日

研修型ペアレント・プログラム

① 10月3日・②10月17日・③11月7日・④11月28日・⑤12月5日・⑥12月19日

時間： 全て 10:00～11:30

場所：新潟市発達障がい支援センター「JOIN(ジョイン)」 多目的ホール2階

対象：就学前・小学校低学年のお子さんをお持ちの保護者 10名 ※新潟市在住者

講師： 中原 竜治 氏 (浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター特任研究員 / 臨床心理士)



都道府県名	新潟市	報告者名	多田 比外美
連携団体名	新潟市発達障がい支援センター「JOIN(ジョイン)」		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<p>□新潟市ではH24年・H25年は単独で、H26年以降は新潟県発達障がい者支援センターと共催で、ペアレント・トレーニングの専門家を招き、行政・医療機関・児童発達支援事業所・相談機関等の職員を対象に「家族コミュニケーション支援者養成研修」を開催してきた。現在、市内の医療機関や児童発達支援事業所など計9箇所において、ペアレント・トレーニングが実施されている。</p> <p>□また、ペアレント・トレーニングの内容を簡単に記したリーフレットやほめることに特化したリーフレットを作成し、医療機関や児童相談所、教育機関などに配布。保育園の保護者講座や公民館の講座などにおいて、これらのリーフレットを用い、先生やスタッフの方に寸劇をやっていただきながら、ほめるコツや25%ルールなどを紹介している。</p> <p>□市内公私立保育園、子育て支援センター職員等においても、当センタースタッフによる講演によりペアレント・トレーニングを学んでいただき、その手法を園便りへの掲載や送迎時における保護者への伝達を行なってもらっている。</p> <p>□以上の活動の効果もあり、ペアレント・トレーニングの受講希望保護者が年々増加する一方、養成研修を受けてもマンパワーやスキルに不安を感じる等の理由からペアトレグループの運営までには至らず、人材育成（養成研修の見直し等）が追い付いていないのが現状である。</p>		

<p>ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について</p>	<p>□新潟市の中でも子育て支援や家族支援が行き届いており、療育機関などの資源に恵まれている地域と支援が行き届いていない地域とで、かなり差がある。</p> <p>□新潟市ではペアレント・トレーニングの認知度がかなり高いが、今後は、診断の有無や発達程度、年齢を問わず、どのような子をもつ保護者にも活用することのできるペアレント・プログラムの周知、理解、促進のための支援者向け講座を行政と連携・協働し、開催することを検討している。</p> <p>□そのうえで、ペアプロの実施に関して積極的である地域にて研修会と研修型ペアプロを実施し、地域へ汎化できるよう計画している。また、地域の特性に合わせたアプローチも行っていきたい。</p>
<p>その他、本事業への感想・ご意見</p>	<p>□今回、認定証を取得した方の多くがペアプロを実施することに不安を感じている。支援者養成研修を開催することについては、なおさらなのであるが、支援者の育成について、今後もアスペ・エルデの会の担当者の方が各地域で定期的開催、認定していただくと幸いです。</p> <p>□フォローアップ研修についても定期的開催していただき、スキルアップや地域への汎化のあり方（他県での実施状況や事例等）についても、ご助言・ご支援ご協力いただければと思います。</p>

● 静岡市

連携協力団体：静岡市発達障害者支援センター「きらり」

日程：事前研修：10月2日（月）9時半～12時

研修型ペアレント・プログラム

① 10月30日 ・ ②11月13日 ・ ③11月24日 ・ ④12月4日 ・ ⑤12月11日 ・ ⑥12月21日

時間：保護者 10時～11時まで

場所：静岡医療福祉センター4階研修所（静岡市駿河区曲金5丁目3番30号）

対象：幼児～学齢期の子育て支援・発達支援にかかわる支援者 10名程度

幼児～学齢期の保護者 10名程度

講師：野村昂樹氏（木野記念会 福田西病院・福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室 客員研究員）



都道府県名	静岡県静岡市	報告者名	杉本 美穂
連携団体名	静岡市発達障害者支援センター「きらり」		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<p>静岡市では近年、早期発達支援に特に着目し、1歳半健診後のフォローを充実させるための体制づくりや、かかりつけ医が発達障害について知識を深めるための研修を開催している。</p> <p>静岡市発達障害者支援センター「きらり」では、平成22年度から「ペアレントメンター・地域サポーター養成研修」を毎年開催しており、修了したペアレントメンターは診断前後の親向けの茶話会や未就園児対象の親子教室等に派遣されている。</p>		
研修型ペアプロを実施されたご感想・ご意見	<p>今回のペアレント・プログラムでは「保護者14名、支援者11名」と大人数で開催したが、保護者を「幼稚園～小学生の親」と「中学生・高校生の親」の2グループに分かれて実施した。そのため、近い年齢の子を持つ親同士でワークを行えたことが参加者には好評で、「ペアレントプログラムが終わった後も交流を続けたい」との声があがっていた。</p> <p>各回の発表では、幼稚園～小学生の親から「今は目の前のことで精いっぱいだったけど、中高生の親の発表を聞いて、もう少し子どもが大きくなるとできることも増えるんだ」「こだわりがあっても何とかなるんだ」と希望がわいたとの意見もあった。また、中高生の親からは幼稚園～小学生の親の発表を聞いて「うちもそういうことがあったな、それに比べれば成長したな」と振り返るきっかけになったとの声があった。さらに、支援者からは「子の年齢によって、困っているところが大きく違っていて、支援の参考になった」との意見があがった。</p>		
ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について	<p>今年度のペアレント・プログラムを受講したことにより、改めて「否定されないで話を聞いてもらう」「いいところ探し」の重要性を保護者・支援者が感じる事ができた。</p> <p>来年度は、市の予算で「ペアレント・プログラム」を行うことが予定されており、すでに今年度ペアプロに参加した支援者数名がアドバンスト・ワークショップを受講して、支援者として研修型ペアレント・プログラムを開催する準備を進めている。今後はより多くの支援者にペアレント・プログラムを知ってもらい、地域に広げていきたいと考えている。</p>		

● 茨城県取手市

連携協力団体：取手市子育て支援課

日程：事前研修 2017年12月11日

研修型ペアレント・プログラム

①12月25日・②1月15日・③1月22日・④1月29日・⑤2月5日・⑥2月26日

時間：10時～11時

場所：東部地域子育て支援センター

対象：市内在住で、2才～就学時前のお子さんを持つ保護者（8名）

講師：村山 恭朗 氏（神戸学院大学 人文学部 人間心理学科 准教授）



都道府県名	茨城県	報告者名	渡辺良江
連携団体名	取手市役所		
貴地域における子育て支援・家族支援体制の現況について	<ul style="list-style-type: none"> 取手市の子育て支援は、子育て支援課（地域子育て支援センター）を主体に展開しています。相談支援援助活動に力を入れていると同時に、親が子どもへの対応を学ぶ機会を早期から提供し、各セッションで親支援プログラムを展開しています。 BPプログラム：保健センターで実施 ペアレントトレーニング：こども発達センターで実施 旧CSPのダイジェスト版講演会を家庭児童相談室で実施 今回ペアプロを地域子育て支援センターで実施 母子保健、子育て支援において、支援が必要な家庭を早期に把握し、療育（障害福祉）や家族支援（家庭児童相談室）につながるように、これらの機関が定期的に会議を持ち、支援の現状確認、サービス調整を行っています。 		

<p>研修型ペアプロを実施されたご感想・ご意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 一方的な講義形式のプログラムでないので、参加してペアワークと一緒にすることで、母との距離が近くなり、母の育児で困っていることや子どもの見方などが良く把握できるようになる。 • その後支援センター利用の時も相談しやすい関係になった。 • 母同士もプログラム参加によって、仲良くなり共通の子育ての悩みを話しやすくなっている。(プログラム参加以外で支援センターを利用しているときのママ同士の関わりの時にみられる)
<p>ペアレント・プログラムを活用した家族支援に対する今後の計画・展望について</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 参加している人たちからも「ぜひ継続してほしい」「他のママにもすすめている」など好評。 • プログラム参加前と比べると、子どもへの関わり方が良くなっていて、親子関係が良くなっていると感じケースが多くなっているため、今回実施した東部子育て支援センターでは、今後も継続して取り組んでいきたい。 <p>*取手市には4か所の地域子育て支援センターがあり、全地域の子育て支援センターで展開していきたいとは思っているが、保育士が主体的に行っていくことについては「自信がない」との意見が多く、4か所同時並行で進めるには時間がかかりそう。各支援センターに配属された保健師が親支援教育の主体を担うことであれば、継続して進めていけると思う。取手市として今後の進め方には検討が必要ではあるが、アドバンスコースにつながる研修機会の情報などがあれば、早目に随時教えていただきたいです。</p>

3. 事業成果物

3-1 アドバンスワークショップの活動写真 (各地域 2~3 枚)

連携協力団体へ、ワークショップ開催中の活動写真撮影の依頼をしてきたが、ご協力の得られた地域と、撮影の失念等によりご協力をいただけなかった地域が存在した。そのため、弊会へ提出された会場の記録の中から、2-1(7)の地域別活動報告の際に、1部ずつ選択して会場の様子として添付した。

3-2 ワorkshop実施に関する報告書 A4版 35ページ (本書)

本事業の計画、実施状況、アドバンスワークショップ終了後に連携協力団体に対して行ったアンケート内容、今後の課題と計画についてまとめた。

(連携協力団体及び全国の発達障害者支援センター等、関係機関へ送付)

3-3 ペアレント・プログラム資格認証

昨年度の全国地域別ペアレント・プログラム実施資格認定者数は、以下の通りである。

<平成 28 年度>

・北海道(8名)	・埼玉県(3名)	・岐阜県(2名)	・鳥取県(0名)	・長崎県(7名)
・青森県(7名)	・千葉県(27名)	・静岡県(31名)	・岡山県(7名)	・熊本県(13名)
・岩手県(1名)	・東京都(1名)	・愛知県(76名)	・広島県(0名)	・大分県(15名)
・宮城県(10名)	・神奈川県(0名)	・三重県(1名)	・山口県(6名)	・宮崎県(0名)
・秋田県(0名)	・新潟県(0名)	・滋賀県(0名)	・徳島県(0名)	・鹿児島県(39名)
・山形県(9名)	・富山県(0名)	・京都府(1名)	・香川県(0名)	・沖縄県(0名)
・福島県(0名)	・石川県(10名)	・大阪府(2名)	・愛媛県(0名)	
・茨城県(0名)	・福井県(10名)	・兵庫県(1名)	・高知県(0名)	
・栃木県(0名)	・山梨県(0名)	・奈良県(2名)	・福岡県(0名)	
・群馬県(0名)	・長野県(0名)	・和歌山県(16名)	・佐賀県(0名)	

今年度の全国地域別ペアレント・プログラム実施資格認定者数(見込み)は、以下の通りである。

(報告書原稿入稿後に、2カ所にてアドバンスワークショップ実施のため)

<過去 2 年間 (平成 28 年度及び平成 29 年度) >

・北海道(15名)	・埼玉県(23名)	・岐阜県(3名)	・鳥取県(0名)	・長崎県(7名)
・青森県(8名)	・千葉県(28名)	・静岡県(112名)	・岡山県(7名)	・熊本県(13名)
・岩手県(1名)	・東京都(3名)	・愛知県(92名)	・広島県(0名)	・大分県(15名)
・宮城県(11名)	・神奈川県(1名)	・三重県(2名)	・山口県(6名)	・宮崎県(0名)
・秋田県(0名)	・新潟県(15名)	・滋賀県(0名)	・徳島県(0名)	・鹿児島県(86名)
・山形県(17名)	・富山県(0名)	・京都府(1名)	・香川県(0名)	・沖縄県(0名)
・福島県(31名)	・石川県(10名)	・大阪府(4名)	・愛媛県(0名)	
・茨城県(0名)	・福井県(10名)	・兵庫県(15名)	・高知県(0名)	
・栃木県(5名)	・山梨県(0名)	・奈良県(2名)	・福岡県(1名)	
・群馬県(0名)	・長野県(0名)	・和歌山県(12名)	・佐賀県(0名)	

(本事業認定者：全国 **計 556 名** 見込み)

※ 上記の地域別認定者数は、資格認定者の現住所別でカウントしたものである。

3-4 ペアレント・プログラムスーパービジョンのご案内資料一式

(巻末付録参照)

4. 全体の成果 及び 今後の課題・取り組みについて

平成 29 年秋にも厚生労働省より全国の障害保健福祉・児童福祉・保育・母子保健の各担当部局宛てにペアレント・プログラム導入促進についての事務連絡が出された。昨年に引き続き、国は家族支援の重要性を強調し、当会が開発したペアレント・プログラム（以下、ペアプロ）の普及に期待を寄せている。弊会は 2016 年度より貴財団の助成の下で支援者資格認定も開始し、既に全国で約 500 名以上の支援者が実施資格認定証を取得した。本事業以外にも、今年度、弊会は各自治体より委託を受けて、認定資格申請が可能となる研修型ペアプロを複数個所において実施してきており、その受講者は数多く存在する。

しかし、SV 事業の開始を試みたが、ようやく次年度以降、実質的に開始できるスタート地点に立つことが出来た段階にあり、資格認定者へのサポートと各地域の実施体制構築には未だ課題として残っている。今後、研修型ペアレント・プログラムを積極的に実施しながら、引き続き支援者の資格認定と自治体との連携提案、ワークショップ、支援者へのスーパービジョンを実施していく予定である。行政職員の参加を積極的に促し自治体の中で継続的な保護者支援を行うことによって、未来を担う子ども達の健全育成を図っていきたい。

巻末付録

年度 ペアレント・プログラム 個別の記録

[] さん

事前情報・第1回の記録	
1. 年齢	歳
2. 事前情報 (あれば)	
3. 自己紹介の様子、参加動機	
4. BDI-II 得点	点 (自殺項目記載: あり・なし) <small>(得点のめやす 0~9点:通常域 10~19点:軽度 20~29点:中等度 30点~:重度)</small>
5. 育てている子ども (今回対象となる子どもに○) 第1子 歳 ヶ月 (男・女) 第2子 歳 ヶ月 (男・女) 第3子 歳 ヶ月 (男・女)	
6. スタッフから見た印象等	
7. その他	

第6回 (終了時) の記録	
1. プログラム全体を通しての取り組みの様子、変化	
2. BDI-II 得点	
点 (自殺項目記載: あり・なし) <small>(得点のめやす 0~9点:通常域 10~19点:軽度 20~29点:中等度 30点~:重度)</small>	
3. 終了後の対応・機関・引き継ぎ事項等 1. 継続的な関わりなし (希望があれば対応する) 2. 地域の子育て支援機関 (子育て支援センター等) で継続して関わる [] 3. 専門機関 (医療機関、療育機関等) 紹介 [] 4. その他 []	
4. その他	

年度 ペアレント・プログラム 個別の記録

[] さん (対象児 歳 ヶ月)

回目	ペア	全体的印象	ワーク理解	ペアワーク	気になる記述等	現状把握表が動詞で書けたか	発表の様子、気になること、フォローの必要性等
1	/	1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安	1. スムーズ 2. 戸惑うが書ける 3. 書けない	1. どれも3個以上書けた 2. 少なくとも1個書けた 3. 全く書けない項目があった	1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い	1. なし 2. あり	1. 8割以上 2. 5~8割 3. 2~5割 4. 2割以下
2	/	1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安	1. 自分で「～する」に変更できた 2. ペアやスタッフの支援があればできた 3. 変更できない	1. 自分で「いいところ」に3個以上格上げできた 2. 1,2個格上げできた 3. 探せなかった	1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い	1. なし 2. あり	1. 8割以上 2. 5~8割 3. 2~5割 4. 2割以下
3	/	1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安	1. 自分でカテゴリを作っていた 2. 部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3. 全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4. 見つけられなかった	1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い	1. なし 2. あり	1. 8割以上 2. 5~8割 3. 2~5割 4. 2割以下	
4	/	1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安	1. ギリギリセーフを行動で書けていた 2. 部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3. 全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4. 見つけられなかった	1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い	1. なし 2. あり	1. 8割以上 2. 5~8割 3. 2~5割 4. 2割以下	
5	/	1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安	1. デンジャラス・〇〇からギリギリセーフを探せた 2. 部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3. 全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4. 見つけられなかった	1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い	1. なし 2. あり	1. 8割以上 2. 5~8割 3. 2~5割 4. 2割以下	
6	/	1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安	自分編 1. 初回と比べて自分を肯定的に見ている 2. 見方はあまり変わらない 子ども編 1. 初回と比べて子どもを肯定的に見ている 2. 見方はあまり変わらない	1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い	1. なし 2. あり	1. 8割以上 2. 5~8割 3. 2~5割 4. 2割以下	

巻末付録

年度 ペアレント・プログラム 参加者の記録

第 1 回 月 日 () 記録者:

番号	名前	全体的印象	自己紹介の様子	ワーク理解		ペアワーク	ワーク発表	気になったことなど
				動詞で書く!				
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. スムーズに取り組む 2. 戸惑うが書ける 3. 書けない	1. どれも3個以上書けた 2. 少なくとも1個書けた 3. 書けない項目があった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. スムーズに取り組む 2. 戸惑うが書ける 3. 書けない	1. どれも3個以上書けた 2. 少なくとも1個書けた 3. 書けない項目があった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. スムーズに取り組む 2. 戸惑うが書ける 3. 書けない	1. どれも3個以上書けた 2. 少なくとも1個書けた 3. 書けない項目があった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. スムーズに取り組む 2. 戸惑うが書ける 3. 書けない	1. どれも3個以上書けた 2. 少なくとも1個書けた 3. 書けない項目があった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. スムーズに取り組む 2. 戸惑うが書ける 3. 書けない	1. どれも3個以上書けた 2. 少なくとも1個書けた 3. 書けない項目があった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		

年度 ペアレント・プログラム 参加者の記録

第 2 回 月 日 () 記録者:

番号	名前	全体的印象	宿題発表の様子	ワーク理解		ペアワーク	ワーク発表	気になったことなど
				「～する」表現	いいところ探し			
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. 自分で変更できた 2. ペアやスタッフの支援があればできた 3. 変更できない 4. 「～ない」がない	1. 3個以上格上げできた 2. 1,2個格上げできた 3. 探せなかった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. 自分で変更できた 2. ペアやスタッフの支援があればできた 3. 変更できない 4. 「～ない」がない	1. 3個以上格上げできた 2. 1,2個格上げできた 3. 探せなかった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. 自分で変更できた 2. ペアやスタッフの支援があればできた 3. 変更できない 4. 「～ない」がない	1. 3個以上格上げできた 2. 1,2個格上げできた 3. 探せなかった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. 自分で変更できた 2. ペアやスタッフの支援があればできた 3. 変更できない 4. 「～ない」がない	1. 3個以上格上げできた 2. 1,2個格上げできた 3. 探せなかった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. 自分で変更できた 2. ペアやスタッフの支援があればできた 3. 変更できない 4. 「～ない」がない	1. 3個以上格上げできた 2. 1,2個格上げできた 3. 探せなかった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		

巻末付録

年度 ベアレント・プログラム 参加者の記録

第 3 回 月 日 () 記録者:

番号	名前	全体的印象	宿題発表の様子	ワーク理解 カテゴリ分け	ペアワーク	ワーク発表	気になったことなど
		1.笑顔、リラックス 2.最初は緊張・不安 3.終始緊張・不安		1.自分でカテゴリを作っていた 2.部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3.全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4.見つけられなかった	ペア: 1.ペアで盛り上がる 2.一方的に話す 3.聞き役が多い		
		1.笑顔、リラックス 2.最初は緊張・不安 3.終始緊張・不安		1.自分でカテゴリを作っていた 2.部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3.全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4.見つけられなかった	ペア: 1.ペアで盛り上がる 2.一方的に話す 3.聞き役が多い		
		1.笑顔、リラックス 2.最初は緊張・不安 3.終始緊張・不安		1.自分でカテゴリを作っていた 2.部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3.全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4.見つけられなかった	ペア: 1.ペアで盛り上がる 2.一方的に話す 3.聞き役が多い		
		1.笑顔、リラックス 2.最初は緊張・不安 3.終始緊張・不安		1.自分でカテゴリを作っていた 2.部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3.全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4.見つけられなかった	ペア: 1.ペアで盛り上がる 2.一方的に話す 3.聞き役が多い		
		1.笑顔、リラックス 2.最初は緊張・不安 3.終始緊張・不安		1.自分でカテゴリを作っていた 2.部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3.全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4.見つけられなかった	ペア: 1.ペアで盛り上がる 2.一方的に話す 3.聞き役が多い		

年度 ベアレント・プログラム 参加者の記録

第 4 回 月 日 () 記録者:

番号	名前	全体的印象	宿題発表の様子	ワーク理解 ギリギリセーフを見つける!	ペアワーク	ワーク発表	気になったことなど
		1.笑顔、リラックス 2.最初は緊張・不安 3.終始緊張・不安		1.ギリギリセーフを行動で書いていた 2.部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3.全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4.見つけられなかった	ペア: 1.ペアで盛り上がる 2.一方的に話す 3.聞き役が多い		
		1.笑顔、リラックス 2.最初は緊張・不安 3.終始緊張・不安		1.ギリギリセーフを行動で書いていた 2.部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3.全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4.見つけられなかった	ペア: 1.ペアで盛り上がる 2.一方的に話す 3.聞き役が多い		
		1.笑顔、リラックス 2.最初は緊張・不安 3.終始緊張・不安		1.ギリギリセーフを行動で書いていた 2.部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3.全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4.見つけられなかった	ペア: 1.ペアで盛り上がる 2.一方的に話す 3.聞き役が多い		
		1.笑顔、リラックス 2.最初は緊張・不安 3.終始緊張・不安		1.ギリギリセーフを行動で書いていた 2.部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3.全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4.見つけられなかった	ペア: 1.ペアで盛り上がる 2.一方的に話す 3.聞き役が多い		
		1.笑顔、リラックス 2.最初は緊張・不安 3.終始緊張・不安		1.ギリギリセーフを行動で書いていた 2.部分的にペアやスタッフの支援があればできた 3.全体的にペアやスタッフの支援があればできた 4.見つけられなかった	ペア: 1.ペアで盛り上がる 2.一方的に話す 3.聞き役が多い		

巻末付録

年度 ペアレント・プログラム 参加者の記録

第 5 回 月 日 () 記録者:

番号	名前	全体的印象	宿題発表の様子	ワーク理解 ギリギリセーフをきわめる!	ペアワーク	ワーク発表	気になったことなど
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. デンジャラス・〇〇からギリギリセーフを探せた 2. 部分的にペアスタッフの支援があればできた 3. 全体的にペアスタッフの支援があればできた 4. 見つけられなかった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. デンジャラス・〇〇からギリギリセーフを探せた 2. 部分的にペアスタッフの支援があればできた 3. 全体的にペアスタッフの支援があればできた 4. 見つけられなかった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. デンジャラス・〇〇からギリギリセーフを探せた 2. 部分的にペアスタッフの支援があればできた 3. 全体的にペアスタッフの支援があればできた 4. 見つけられなかった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. デンジャラス・〇〇からギリギリセーフを探せた 2. 部分的にペアスタッフの支援があればできた 3. 全体的にペアスタッフの支援があればできた 4. 見つけられなかった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		1. デンジャラス・〇〇からギリギリセーフを探せた 2. 部分的にペアスタッフの支援があればできた 3. 全体的にペアスタッフの支援があればできた 4. 見つけられなかった	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		






年度 ペアレント・プログラム 参加者の記録

第 6 回 月 日 () 記録者:

番号	名前	全体的印象	宿題発表の様子	ワーク理解 ペアプロで見つけたことを確認する!	ペアワーク	ワーク発表	気になったことなど
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		自分編 1. 初回と比べて自分を肯定的に見ている 2. 見方はあまり変わらない 子ども編 1. 初回と比べて子どもを肯定的に見ている 2. 見方はあまり変わらない	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		自分編 1. 初回と比べて自分を肯定的に見ている 2. 見方はあまり変わらない 子ども編 1. 初回と比べて子どもを肯定的に見ている 2. 見方はあまり変わらない	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		自分編 1. 初回と比べて自分を肯定的に見ている 2. 見方はあまり変わらない 子ども編 1. 初回と比べて子どもを肯定的に見ている 2. 見方はあまり変わらない	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		自分編 1. 初回と比べて自分を肯定的に見ている 2. 見方はあまり変わらない 子ども編 1. 初回と比べて子どもを肯定的に見ている 2. 見方はあまり変わらない	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		
		1. 笑顔、リラックス 2. 最初は緊張・不安 3. 終始緊張・不安		自分編 1. 初回と比べて自分を肯定的に見ている 2. 見方はあまり変わらない 子ども編 1. 初回と比べて子どもを肯定的に見ている 2. 見方はあまり変わらない	ペア: 1. ペアで盛り上がる 2. 一方的に話す 3. 聞き役が多い		

卷末付録

配置・ペア

第1回 (月 日) 司会 	第2回 (月 日) 司会 	第3回 (月 日) 司会 
第4回 (月 日) 司会 	第5回 (月 日) 司会 	第6回 (月 日) 司会 